

⑤研究指導・研修等に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
国際研修（セ05）	文化遺産国際協力センター	71
無形文化遺産に関する助言（無）	無形文化遺産部	72
文化財の材質に関する調査と援助・助言（保修）	保存修復科学センター	72
文化財の修復及び整備に関する調査・助言（保修）	保存修復科学センター	73
美術館・博物館等の環境調査と援助・助言（保修）	保存修復科学センター	74
文化財の虫菌害についての調査・助言（保修）	保存修復科学センター	75
保存担当学芸員研修（保修10）	保存修復科学センター	76
連携大学院教育（共）	保存修復科学センター	78

国際研修「紙の保存と修復」(⑤セ05-12-2/5)

目 的

日本の紙文化財を所蔵する海外の美術館・博物館に専門の保存修復家が所属していることは稀であり、海外の保存担当者からの保存修復についての問い合わせは多い。日本美術品の保存・修復・活用を行うには、材料や技法などの基礎的な理解と取扱い、修復の実技研修が必要であるが、海外でそのような機会を得ることは困難である。また近年では、日本美術品に限らず、和紙を使った修復技術が海外の文化財修復に応用されるようになってきた。そこで本研修では、紙文化財に関する保存修復の講義及び演習を通して、参加者に紙文化財に関わる基礎知識を伝えるための研修を行う。

概 要

本年は国内及びメキシコにおいて研修を行った。

1. 日本国内研修

- ・国際研修「紙の保存と修復」(International Course on Conservation of Japanese Paper)
- ・場所：東京文化財研究所、その他・期間：2012(平成24)年8月27日～9月14日
- ・参加者国名：エジプト、オーストリア、イタリア、アメリカ、コロンビア、デンマーク、タイ、ロシア、ポーランド、オーストラリアから10名
- ・内容：日本の伝統的な紙文化財修復に関係する、紙、接着剤、道具、技術についての講義、見学とともに、装潢技術を用いた卷子修理、製本などの実習を行った。

[講義] 早川典子「日本画修復に使われる接着剤について」、加藤雅人「紙の基礎」、岡泰央「装潢概念」、江村知子「日本における紙本絵画の歴史と伝統」

[実習等] 卷子修復、冊子綴じ、掛軸・屏風取り扱い、所内見学、討論

[スタディーツアー] 9月3～7日実施。岐阜県美濃市(長谷川和紙工房見学、美濃和紙の里会館観覧及び和紙の手漉き、美濃史料館観覧、美濃市美濃町伝統的建造物群保存地区見学)、福岡県太宰府市(九州国立博物館バックヤード見学)、京都市(修復材料・道具店、岡墨光堂(修復工房)見学)

2. メキシコ研修

- ・ICCROM-LATAMプログラムにおけるInternational Course on Paper Conservation in Latin America
- ・場所：メキシコ国立人類学歴史機構・期間：2012(平成24)年10月17日～10月30日
- ・参加者：ベネスエラ、キューバ、チリ、エクアドル、ブラジル、ペルー、コロンビア、アルゼンチン、メキシコから12名
- ・内容：研修の前半は、装潢修理技術に用いる材料、道具、技術をテーマに、日本人講師が講義、実習を行った。研修後半では、装潢修理技術の研修後実用経験のあるメキシコ、スペイン、アルゼンチンの講師らが、日本の材料、道具、技術が欧米の文化財修復に実際にどのように活用されているかを紹介し、実習を行った。

[講義、実演] 加藤雅人「日本における紙文化財修復」、池田和彦「装潢に使用される道具」、楠京子「装潢で使用する糊」、池田和彦「修復のための診断」、池田和彦「クリーニング」、加藤雅人「紙の基礎」、加藤雅人「和紙の抄造」、池田和彦「補てん」、池田和彦「裏打ち」、加藤雅人「和紙の性質」、加藤雅人・池田和彦・楠京子「仮張り」

[実習] 楠京子・池田和彦・加藤雅人「糊の調製」、池田和彦・楠京子「補てん」、池田和彦・楠京子「裏打ち」

研究組織

○川野邊渉、加藤雅人、江村知子、楠京子、山田祐子、川端冴子(以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子(保存修復科学センター)

無形文化遺産に関する助言（⑤無）

無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する各種委員会等へ出席し、以下の指導・助言を実施した。（宮田繁幸、高桑いづみ、飯島満、今石みぎわ）。

- (1) 文化庁への助言（無形文化遺産保護条約への対応に関して） 7件
- (2) (財) 伝統文化活性化国民協会への助言（全国神楽協議会、無形文化遺産記録所在情報データベースに関して） 2件
- (3) (財) 日本青年館への助言（全国民俗芸能大会、青年大会に関して） 3件
- (4) 日本芸術文化振興会への助言(文楽公演、芸術文化振興基金助成事業に関して) 4件
- (5) 大和郡山市への助言（水木十五堂賞の選考に関して） 2件
- (6) 東京都台東区への助言（無形文化遺産に関して） 1件
- (7) 日本ユネスコ協会連盟への助言（プロジェクト未来遺産運動に関して） 2件
- (8) 早稲田大学演劇博物館への助言（映像演劇学連携研究拠点事業に関して） 4件

文化財の材質に関する調査と援助・助言（⑤必修）

(1) 文化財の材質調査

様々な文化財資料について、その材料や彩色を科学的に調査し、化学組成や化学的構造を明らかにした。可搬型の機器を用いて、文化財資料が置かれている場所での現地調査も実施した。調査終了後には報告書を作成し、分析依頼元へ提出した。

(資料名)	(所蔵者／依頼者)
日本画	東京藝術大学
金属製品	女子美術大学
金属製品	うるし博物館
板壁絵	平等院
漆工品	根津美術館
金銅製品	文化庁
日本画	永青文庫美術館
絵 図	群馬県立文書館
漆工品	静嘉堂文庫美術館
銅 鏡	市原市教育委員会

(2) X線透視撮影による構造調査

X線透視撮影を用いて文化財資料の構造を調査し、資料の制作技法や劣化の状態を明らかにした。

(資料名)	(所蔵者／依頼者)	
埋蔵文化財	出土遺物	京都府京都市
	鉄製壺	神奈川県鎌倉市
	埴輪	埼玉県熊谷市
	鉄剣、銅鏡	千葉県市原市
彫刻	石膏像	東京藝術大学

	仏像	長浜城歴史博物館
	仏像	大津市歴史博物館
	仏像	宮城県安国寺
	石膏像	礪山美術館
その他	服飾品	杉野学園衣裳博物館

文化財の修復及び整備に関する調査・助言 (⑤ 必修)

- ・ 国宝高松塚古墳壁画の保存修復に関する指導助言 (岡田健、朽津信明、北野信彦、早川典子、森井順之)
- ・ 特別史跡・キトラ古墳壁画の保存修復に関する指導助言 (岡田健、朽津信明、北野信彦、早川典子、森井順之)
- ・ 巖島神社の保存修復に関する指導助言 (北野信彦、早川典子、森井順之)
- ・ 国宝白杵磨崖仏の保存修復に関する指導助言 (川野邊渉、朽津信明、森井順之、早川典子)
- ・ 重要文化財霧島神宮本殿の修復に関する指導助言 (川野邊渉、朽津信明、早川典子、森井順之、木川りか、佐藤嘉則)
- ・ 史跡屋形古墳群などきは市内装飾古墳群の保存管理に関する指導助言 (川野邊渉、朽津信明、森井順之、犬塚将英)
- ・ 日光二社一寺の世界遺産環境モニタリングに関する指導助言 (川野邊渉、森井順之)
- ・ 重要文化財菅尾磨崖仏の修復に関する指導助言 (朽津信明、森井順之)
- ・ 平等院阿弥陀堂 (鳳凰堂) 塗装修理の施工に関する指導助言 (北野信彦)
- ・ 史跡竹原古墳の保存管理に関する指導助言 (森井順之、犬塚将英)
- ・ 史跡佐渡金銀山遺跡の保存管理計画に関する指導助言 (中山俊介)
- ・ 史跡葦山反射炉の保存修復に関する指導助言 (中山俊介)
- ・ 史跡萩反射炉の保存修復に関する指導助言 (中山俊介)
- ・ 史跡原爆ドームの保存技術に関する指導助言 (中山俊介)
- ・ 重要文化財加悦鉄道123号機関車の保存修復に関する指導助言 (中山俊介)
- ・ 東大寺法華堂安置仏像群及び塑像四天王立像 (戒壇院安置) の地震対策に関する指導助言 (朽津信明、森井順之)
- ・ 鎌倉大仏の保存管理計画に関する指導助言 (森井順之、早川典子)
- ・ 重要文化財スチームハンマーの保存管理に関する指導助言 (森井順之)
- ・ 国宝瑞巖寺本堂の塗装彩色修理に関する指導助言 (北野信彦)
- ・ 明治村所蔵木製家具の修復に関する指導助言 (中山俊介、早川典子、山下好彦)
- ・ 広島県指定重要文化財磨崖和霊石地藏の保存修理に関する指導助言 (朽津信明、森井順之)
- ・ 小高磨崖仏の保存整備に関する指導助言 (朽津信明、森井順之)
- ・ 大分県指定史跡羅漢寺五百羅漢の保存、記録に関する指導助言 (森井順之)
- ・ 白杵市内キリシタン遺跡の保存に関する指導助言 (朽津信明、森井順之)
- ・ 大山崎町宝積寺石造塔の保存に関する指導助言 (朽津信明、森井順之)
- ・ 京都府・檀王法林寺「日吉山王祭礼凶屏風」の修理に関する指導助言 (朽津信明、早川典子)
- ・ 大牟田市・萩ノ尾古墳の保存に関する指導助言 (朽津信明、森井順之)
- ・ 広川町・石人山古墳の保存に関する指導助言 (朽津信明、森井順之)
- ・ みやこ町・皆見大塚古墳の保存に関する指導助言 (朽津信明、森井順之)
- ・ 前橋市・東覚寺層塔の保存に関する指導助言 (朽津信明)
- ・ 双葉町・清戸迫横穴の保存に関する指導助言 (朽津信明)

⑤研究指導・研修等 Area21

- ・佐渡市・大久保長安逆修塔の保存に関する指導助言（朽津信明）
- ・東京大学「懐徳館」紙本金銀箔金雲衝立に係る修理指導（早川典子、山下好彦）
- ・絵金屏風の保存修理に関する指導助言（岡田健、川野邊渉、城野誠治、早川康弘、朽津信明、早川典子）
- ・東京都指定文化財候補地の史跡整備に関する指導助言（北野信彦）
- ・京都市（平安京左京三条四坊十町跡など）出土資料の保存修復及び分析に関する指導助言（北野信彦）
- ・塩尻市小野家住宅部材の塗装修理に関する指導助言（北野信彦）
- ・東京大学史料編纂所「懐徳館」資本金銀箔金雲衝立に関わる調査及び修理（山下好彦）
- ・桑名市博物館所蔵松平定信<<細写物語歌書『源氏物語』>>の収蔵箱修理に関する指導助言（山下好彦）
- ・ベルギーRoyal Museums of Art and History 所蔵 Japanese Towerの漆塗膜修理に関する指導助言（山下好彦）

美術館・博物館等の環境調査と援助・助言（⑤保修）

国宝・重要文化財などの指定品及び東京国立博物館収蔵資料の展示・収蔵・借用に関して館内環境調査を行い、報告書を作成・提出した。

宮城	仙台市博物館	三重	松阪市文化財センター「はにわ館」
茨城	茨城県近代美術館		公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム
栃木	小山市立博物館	大阪	財団法人逸翁美術館
東京	北区飛鳥山博物館	兵庫	兵庫県立考古博物館
	府中市美術館	和歌山	田辺市歴史民俗資料館
新潟	新潟市歴史博物館	島根	出雲弥生の森博物館
富山	富山県埋蔵文化財センター	広島	安芸高田市歴史民俗博物館
岐阜	岐阜県博物館	山口	萩博物館
	中津川苗木遠山史料館	香川	綾川町立生涯学習センター
静岡	静岡市立登呂博物館	愛媛	宇和島市立伊達博物館
	静岡市美術館	大分	竹田市立歴史資料館
愛知	名古屋市美術館	宮崎	宮崎県総合博物館

現地調査は日光東照宮宝物館・東京都美術館・鎌木清方記念美術館・群馬県立歴史博物館・金沢21世紀美術館・三重県立博物館・田辺市歴史民俗資料館・福岡市美術館・竹田市立歴史資料館の9館。また函館市縄文文化交流センターなど、全国98館の新設既設美術館・博物館等文化財展示収蔵施設に対して環境改善に関する相談を受け、助言を行った。これらの館については各館ごとに環境調査ファイルを作成して調査を行っている。

文化財の虫菌害についての調査・助言（⑤必修）

文化財の虫菌害への個々の対応、もしくは防除方法全般について問い合わせを受け、調査や助言を行った（木川りか、佐藤嘉則、小峰幸夫、佐野千絵、犬塚将英、吉田直人）。

神奈川県立公文書館

岩手県立博物館

極楽寺

仙台市博物館

ひたちなか市虎塚古墳

国立西洋美術館

飯田市教育委員会

茂原市立美術館

ブリヂストン美術館

国宝修理装飾師連盟

金沢21世紀美術館

沖縄県公文書館

松江歴史館

白鶴美術館

周防大島文化交流センター

奈良県教育委員会

鹿児島市立美術館

南あわじ市三原図書館

文化庁伝統文化課

茅野市美術館

阿智村教育委員会

君津市立久留里城址資料館

国立歴史民俗博物館

いわき市中田横穴

増上寺

静嘉堂文庫美術館

延暦寺

国立国会図書館

女子美術大学美術館

愛媛県美術館

京都大学生存圏研究所

霧島神宮

中国陶磁器美術館

輪王寺

国立東京工業高等専門学校

奈良文化財研究所平城宮跡遺構展示館

千葉県立中央博物館

法隆寺

仁和寺

福岡市美術館

東大寺ミュージアム

真田宝物館

九州国立博物館

博物館明治村

保存担当学芸員研修 (⑤必修10-12-2/5)

1. 保存担当学芸員研修

保存担当学芸員研修日程：2012（平成24）年7月9日（月）～20日（金）、参加者数：30名

資料の「保存」は博物館や美術館といった文化財施設に課せられた大きな使命であるが、これは単に「保管」することではなく、資料の「文化財」としての価値が環境要因に起因する物理的、化学的変化によって損なわれることを防ぎ、後世に伝えることである。従って、「保存」は極めて自然科学的な行為であるが、それにも関わらず保存を担当する学芸員がそのための専門知識や技術を学ぶ機会は極めて乏しい。そのため、東京文化財研究所では、1984（昭和59）年以来毎年、資料保存を担当する学芸員などを対象とした「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を実施し、現場で自らの手で保存環境を把握し、必要な改善を行うことの出来る人材を育成してきた。これまでの修了生は700人を超え、各地で資料保存の重責を担っている。平成24年度は、29回目となる本研修を2週間実施した。

7月9日（月）

岡田健「文化財保存概論」

佐野千絵「保存環境各論 一文化財の材質・構造一」

地主智彦（文化庁）「保存環境各論 一文化財公開施設の設計一」

7月10日（火）

犬塚将英「保存環境各論・実習 一温湿度一」

木川りか「生物被害概論」

小峰幸夫（文化財虫害研究所）・木川りか「生物被害実習 一文化財害虫同定一」

7月11日（水）

佐藤嘉則「生物被害各論 一カビ一」

佐野千絵「保存環境各論 一室内汚染一」

吉田直人「保存環境各論 一光と照明一」

三浦定俊「博物館の設備 一防災・防犯一」

吉田直人「保存環境実習 一室内汚染の測定法一」

7月12日（木）

吉田直人「東文研による環境調査」

朽津信明「保存環境各論 一屋外の文化財一」

吉田直人「保存環境実習 一光と照明一」

早川泰弘「保存環境各論 一大気汚染一」

木川りか「生物被害実習 一トラップデータ解析一」

7月13日（金）

山口孝子（東京都写真美術館）「劣化と保存各論 一写真一」

森井順之「大災害に備えて」

ケーススタディテーマ打合せ

7月17日（火）

北野信彦「劣化と保存各論 一出土遺物一」

坂本雅美（紙本保存修復家）「劣化と保存各論 一紙一」

犬塚将英「温湿度実習解説」

東京国立博物館における講義と見学

7月18日（水）

「環境調査実習 ―ケーススタディー」（国立歴史民俗博物館にて実施）

7月19日（木）

山本記子（保存修復支援技術者 絵画・書跡）「劣化と保存各論 ―日本画―」

早川典子「劣化と保存各論 ―修復材料―」

ケーススタディ発表

7月20日（金）

木島隆康（東京藝術大学）「劣化と保存各論 ―油彩画―」

中山俊介「劣化と保存各論 ―近代文化財―」

研修参加者：渡邊裕美子、湯浅健次郎、山田正樹、三好賢子、富岡優子、土屋慶丞、立和名啓人、竹田梨紗、高橋律子、高田紫帆、清水健、齊藤晴子、小谷竜介、幸喜淳、切原勇人、木山貴満、菅野晶、川又晋、河合志穂、加藤基樹、沖松信隆、江尻英貴、浦木賢治、梅田徹、井本悠紀、今香、石川優生、浅利絵里子、秋山純子、井上大樹

所属：予科練平和記念館、新潟市會津八一記念館、静嘉堂文庫美術館、香川県立ミュージアム、北九州市立自然史・歴史博物館、釧路市立博物館、千葉県立房総のむら、逸翁美術館、金沢21世紀美術館、長野県信濃美術館、奈良国立博物館、町田市立博物館、宮城県教育庁文化財保護課、首里城公園管理センター、鹿児島県歴史資料センター黎明館、熊本市立熊本博物館、青森県立美術館、岩手県立博物館、稲沢市荻須記念美術館、富山県[立山博物館]、国立歴史民俗博物館、いわき市立美術館、埼玉県立歴史と民俗の博物館、浜松市楽器博物館、日本美術刀剣保存協会、米子市美術館、大分県立歴史博物館、秋田県立博物館、九州国立博物館、文化庁文化財部美術学芸課

2. 博物館・美術館等保存担当学芸員研修フォローアップ研修 ―今後の生物被害対策のあり方―

1981（昭和56）年より毎年、当研究所で開催している博物館・美術館等保存担当学芸員研修の修了者数は700人を超えた。修了生の尽力によって、収蔵・展示環境は大きく改善し、またそのための知識も広く認識されるに至った。しかし、この間にも、科学の進歩とともに、館内環境改善のための技術は発展し続けている。また、地球温暖化、夏季や大震災後の節電対策など、最近の博物館・美術館をとりまく情勢にも、以前には見られなかった変化が生じている。このような状況に伴い、従来とは異なる知識が学芸員に要求されている。本研修では、保存担当学芸員研修修了者を対象に、その職務に必要な最新の知識を常に持つことを目的に、再研修を行おうとするものである。

日程：2012（平成24）年6月25日（月）、会場：東京文化財研究所、参加者：80名

プログラム・講師

岡田健「文化財レスキューのこれまで」

森井順之「大規模災害に強い文化財施設と設備」

佐野千絵「フィルム収蔵庫の保存環境」

吉田直人「東文研が関わる保存環境調査、相談と助言に関して」

3. 資料保存地域研修

博物館・美術館などの文化財公開施設における資料保存は、保存を担当する学芸員のみによってなされるものではない。学芸員以外の館長、事務職や警備員、監視員、空調機器の管理・保守作業員など、博物館の様々な業務に携わる多くの人々が共同で行うものである。本研修は文化財保護に関する知識を、文化財公開施設に勤務するできるだけ多くの職員に理解してもらうため、各地の博物館協議会などの協力を得て開催するものである。

[第17回] 日程：2012（平成24）年10月26日（金）会場：岡山県立美術館

共催：岡山県博物館協議会、参加者：67名

⑤研究指導・研修等 Area22,23

プログラム・講師

- 佐野千絵「保存環境 総論」
吉田直人「保存環境各論 温湿度」
佐野千絵「保存環境各論 空気環境」
吉田直人「保存環境各論 光・照明」
佐藤嘉則「生物被害」

連携大学院教育（⑤共）

東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）

1995（平成7）年4月より東京藝術大学と連携して大学院教育を行い、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と、保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の2講座から成り、各講座3名ずつの研究所所員が連携教員として研究教育指導に当たっている。

(1) 開設講座と連携教員

保存環境学講座

- 連携教授 佐野千絵（保存科学研究室長）
連携教授 木川りか（生物科学研究室長）
連携准教授 朽津信明（修復材料研究室長）

修復材料学講座

- 連携教授 中山俊介（近代文化遺産研究室長）
連携教授 北野信彦（伝統技術研究室長）
連携准教授 早川典子（主任研究員）
助手 古田嶋智子（東京藝術大学大学院教育研究助手）

(2) 授業及び主たる担当教員

- 保存環境計画論（前期） 佐野千絵 連携教授
修復計画論（前期） 北野信彦 連携教授
修復材料学特論（前期） 中山俊介 連携教授・早川典子 連携准教授
保存環境学特論（後期） 木川りか 連携教授・朽津信明 連携准教授

(3) 文化財保存学演習（2012年6月20日）

「伝統的接着剤の基礎知識」

会場：東京文化財研究所

担当：早川典子 連携准教授

(4) 平成25年度修士課程入学試験（2012年9月18、19日）合格者1名